

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4 年間の目標	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①国際理解教育のさらなる充実。  ②基礎学力の定着と応用力の伸長。	①国際理解を深めるための学習の機会を最大限増やす。  ②基礎力の定着と応用力の伸長を目指した授業研究を充実させる。	①留学生を積極的に受け入れ、相互の学習の機会を増やす。  ②基礎力の定着と応用力の伸長についての効果的な授業方法等の研究を進め、各教科での教材や授業方法の共有化を推進する。	①留学生との交流会及び姉妹校交流を前年比3回以上多く実施したか。  ②テーマに沿った授業研究協議を3回以上実施、職員全体での研修会を1回以上実施したか。	・短期留学生を積極的に受け入れることができた。27年度より継続1名、28年度には新たに4名を迎え、グローバルコミュニケーションコースの生徒とともに学校生活を送ることができた。 ・留学生との交流会の実施は2回にとどまったが、互いの文化理解やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。 ・海外語学研修を実施し、20名の生徒が姉妹校オーストラリア・レーベンズホー高校を訪問し交流した。 ・国際理解教育特別授業として、5月と12月に海外で活躍している方を講師として招きアフリカの現状について学んだ。 ・コース発表会に1・2年グローバルコミュニケーションコース生徒5名が参加し、日頃の学習成果を発表した。 ・9月にアクティブ・ラーニングについての校内研究会を外部講師を招いて実施した。本校と生徒と学力面等で共通点が多い学校での実践例について紹介されており、本校での授業改善の考え方や方法を考えるうえで有意義であった。 ・6教科で研究授業及び事前、事後の研究授業を実施し、内容的にも充実したものが見られた。	・留学生学習サポート体制を充実させる必要がある。 ・留学生との交流会にさらに多くの生徒が参加できるよう、企画に工夫を必要とする必要がある。 ・姉妹校レーベンズホー高校との交流については、充実したものであったが、統合以降の交流のあり方についても含め検討していく必要がある。 ・29年度は姉妹校が来校する予定であるが、日程、交流内容など充実したものになるよう検討していく必要がある。 ・グローバルコミュニケーションコースが2・3年生のみとなるが、国際交流や国際理解教育など学校全体の取り組みにするよう検討していく必要がある。  ・研究授業を行う際に事前協議の段階から「教科」で授業づくりを実践するという体制をしっかりと定着させ、より多くの教員が積極的に参加できるようにしていくことが必要である。 ・本校生徒の学習面での課題や身につけさせたい力について、学校全体で総括し、問題意識や方向性を共有する機会をつくり、研究授業の成果を日常の授業に反映させていくための方法等について検討していく必要がある。	[保護者]・学校内に留学生がいることで、子どもたちに良い刺激となっている。 ・10年近く続いている姉妹校交流は、新校へ引き継いでほしい。 ・オーストラリア語学研修に参加し、子どもは大きく成長した気がする。 ・国際理解講座を学年全体で実施できたことは良かった。保護者も是非参加してほしい。  [学校評議員]・アクティブ・ラーニングは主体的・対話的に自分の考えを伝える能力を育むものであり、評価との関係が難しいが、今後検討してほしい。 ・幼稚園から高校まで新学習指導要領を踏まえた学習の継続が図られるよう検討してほしい。	・国際交流については、留学生の受け入れを積極的に推進したことで、交流の機会を拡大することができた。 ・オーストラリアレーベンズホー高校との姉妹校交流については、現地での授業(体育や芸術など)を通じた交流が、語学学習や異文化理解のきっかけとして非常に効果的であった。  ・グローバルコミュニケーションコースの特別授業がより系統的、組織的に実施されるようになった。また受講者の成果を学年全体に波及させることができた。  ・主体的・対話的で深い学びの実現のためのアクティブ・ラーニングの視点を教職員で共有することができた。今後はさらに理解を深めるとともに実践に向けて組織的対応を図ることが必要である。	・引き続き、短期留学生を積極的に受け入れることで、交流の機会をさらに拡大する。 ・オーストラリアレーベンズホー高校受け入れについて、本年度の経験を生かし、授業での交流を拡大するなど、双方にとって充実した取組みとなるようプログラムを検討する。 ・実用英語検定の受検を一般コースにも広げることで、多くの生徒が目標をもって学習に取り組むようになる。 ・幼稚園から高等学校までの学習指導要領を踏まえたアクティブ・ラーニングの視点による授業研究を推進するとともに、評価についても研究する。
2 生徒指導 ・支援	①社会的自立と社会性の育成。  ②豊かな人間性を培い、社会に貢献できる人材の育成。	①磯子モラル(社会人として求められる行動)を定着させる。 ②生徒主体の学校行事運営によるリーダーシップを育成する。 ③部活加入者の増加と活性化を図る。	①服装指導や頭髪指導を徹底する。 ②挨拶の励行や、言葉遣い、礼儀に対する意識を高めるよう支援する。 ③行事の運営にあたり生徒の自主的な活動を促し、より活発な活動を引き出す。 ④部活動の環境を整え、充実した活動が持続できるよう支援する。	①特別指導の件数を前年比15%以上の減となったか。 ②近隣住民等からの苦情件数が前年比15%以上減となったか。 ③部長会等においてリーダーシップ教育を実施したか。 ④部活動継続率が50%以上であったか。	・特別指導の件数は横ばいではあるが指導内容の半数が軽微な指導となった。パーカーの着用率はほぼ0になった。 ・苦情の件数は半減した。  ・体育祭や球技大会では運動部や体育委員が積極的に動くようになり、リーダーとして行事を盛り上げていた。 ・部活動の入部率は2月末で47%(1・2年生)2年生は継続率が横ばい、1年生は退部した生徒も出ている。 ・各部の実績を掲示するなどし、活気あふれる活動を行っている。	・頭髪指導、異装指導などできめ細かく個々の生徒に対応できる指導を広げていく。 ・近隣住民やバス利用者などに配慮する意識を生徒に定着させる。  ・各行事で生徒が活躍できるよう、部活動や委員会の役割を設定し盛り上げていく。 また、生徒会役員がやりがいを感じられるよう支援していく。 ・3学年そろそろ最後の年となるため、入部率を高められるよう広報活動の充実を図る。 また、設備等でも支援をする。	[保護者]・きめ細やかな指導により、学校全体が落ち着いている。 ・学校行事の手伝いに参加した際など、生徒は気持ちよく挨拶してくれる。 ・体育祭や文化祭など年々盛り上がってきており、運営面で生徒の活躍が見られた。 ・活発に活動している部活も多いが、今後完校に向かい、活動が縮小されないように願いたい。 [学校評議員]・地域でも生活指導の強化と指導の継続は理解しており、十分な成果が出ている。 ・近隣に住んでいても、生徒によるストレスや気になることが全くない。問題行動も見られなくなった。 ・コンビニ等でのマナーも良い。	・細やかな生徒指導により、学校全体の落ち着きが増し、生徒の規範意識を向上させることができた。 ・文化祭、体育祭、球技大会などの運営面における生徒の主体的な活動が多く見られた。 ・部活動において、部としての一体感が向上し、磯子高校の生徒としての誇りが増してきた。また、生き生きとした活気ある高校生活の様子が見られた。 ・生徒の様子について、家庭との連絡がこまめにとられており、生徒指導・支援がスムーズに行われた。	・学校行事では、生徒の達成感と有用感を高めるために、保護者や地域の参加協力体制をさらに整備する。  ・ネット社会における危険性についての教育をさらに充実させ、生徒が事故や犯罪に巻き込まれないよう啓発活動の充実を図る。

3	進路指導・支援	①自己のより高い進路実現にチャレンジする生徒の育成。 ②職業的自立と将来を見据えたキャリア教育の充実。	①生徒一人ひとりの現状を把握し、より高い目標設定ができる進路支援を行う。 ②自己理解と適正を踏まえた職業観を育成する。	①進路相談や外部業者を活用したガイダンスを実施する。 ②総合的な学習の時間やキャリアガイダンスを通して将来を見据えた職業観を育成する。	①ガイダンス・進路相談を各2回以上実施したか。 ②仕事の学び場、インターンシップ等の参加者数が前年比3名以上増えたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学受験の一般入試に向けて、意識を高め、進路の実現に向けてサポートすることができた。（3学年）</li> <li>・生徒の発達段階と学年ごとの指導目標に応じてキャリア設計についての学習を充実させることができた。</li> <li>・「総合的な学習の時間」を活用し、外部講師や大学生などを招き、様々な分野や目的に応じたキャリアガイダンスを計画的に企画・実施することができた。</li> <li>・「仕事のまなび場」1名、「インターンシップ」13名の参加があった。インターンシップは前年度より4名増の参加となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体での体制を構築できれば、より充実したサポートが可能であると思われる。</li> <li>・オープンキャンパスや見学会などへの参加を一層促し、納得のいく進路選択ができるよう指導していく必要がある。</li> <li>・卒業生、社会人の経験談を聞く機会を設け、卒業後の進路についての意識を啓発し、一人ひとりの生徒の進路実現を支援していきたい。</li> <li>・「仕事のまなび場」は、専修学校の実習施設を活用する疑似体験講座であり、「インターンシップ」は、企業における職業体験である。希望者数の差からも自明であるが、来年度からは「インターンシップ」への参加を勧めたい。</li> </ul>	<p>〔保護者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の時からキャリアがイグンスを実施していることで、子どもの意識が高まっている。</li> <li>・大学進学希望者に対する学習指導が定着してきている。</li> </ul> <p>〔学校評議員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を早い時期から始めることで、一芸が作られ、大学入学後の学習意欲が出てくる。</li> <li>・高校卒業時の進路先にあるその他の人数を減らしてほしい。</li> <li>・早い時期から、社会を広く見ることが重要であり、機会を増やしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス・進路相談を充実させ、生徒の進路希望把握に努めたところ、希望する進路を実現する生徒が増えた。四年生大学合格者数や第一希望への進路決定者が年々増加している。</li> <li>・早い時期からキャリアがイグンスを実施しているため、興味を持って活動できる生徒が増えている。保護者の協力を得るためにも進路情報を的確に発信していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの活用など保護者への情報提供の工夫を図る。</li> <li>・卒業生や関係機関など、外部の人材を活用していく。</li> <li>・進路閲覧室の活用をさらに活性化させるための工夫に取り組む。</li> <li>・実体験に基づいた学習ができるインターンシップに重点を置いた指導を充実させる。</li> </ul>
4	地域等との協働	①地域に根ざした学校を目指し、双方の教育力の最大限の活用。 ②地域防災との連携推進。	①地域へ本校の教育力を還元できる機会を充実させる。 ②地域と連携した防災に係る職員の意識を高める。	①公開講座を実施し、教育力の発信を行う。 ②地域でのボランティア活動に積極的に参加できる体制を整える。 ③防災訓練への取組に地域の視点を加え、より現実に即した内容のものとする。	①公開講座を実施したか。 ②ボランティア活動参加者が前年比10名以上増えたか。 ③地域からの防災に係る要望を新たに受け入れたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに『インターネットを使った国際貢献』についての県立学校公開講座を実施し、地域の方や保護者など8名の参加があった。</li> <li>・せせらぎ学校を1学年全体で実施し、地域の方、保護者、卒業生など60名の方を講師として招き、異世代交流を行った。</li> <li>・夏休みに『子どもわくわく体験教室』として、茶道部、空手道部、書道部の生徒が地域の幼小中学生約60名に指導を行った。</li> <li>・子どもの発達と保育の受講者18名が上中里幼稚園で授業の成果を発表した。</li> <li>・吹奏楽部10名、漫画研究部6名の部員が地域の高齢者福祉施設のイベントで、サポートや演奏を披露するなどボランティア活動を行った。</li> <li>・さわの里小学校との交流として、なかよし会に29名、防犯教室に16名、見学・座談会に11名、運動会のお手伝いとして9名の生徒が参加し活動した。</li> <li>・前年比5名の増加となった。</li> <li>・延べ8名の生徒が上中里地区の防災訓練に参加し、補助員として活動した。</li> <li>・8月に。管理運営グループ員でDIG研修を行い、地域防災に関する見識を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立学校公開講座は申し込み、手続き等の手間がかかるため、参加者を増やすためには、本校で実施されている国際理解講座や福祉講座などを公開講座として実施したほうがよいのではないかと検討する。</li> <li>・せせらぎ学校の規模を大きくしたため、講師を探すのに手間取ってしまった。同窓会やボランティア人材バンクなど活用したい。</li> <li>・子どもわくわく体験教室は、参加した子どもたちには好評であったが、近隣の参加者が少なかったので、是非参加してもらえよう工夫したい。</li> <li>・さわの里小学校や上中里幼稚園との交流など地域にねざした活動が、最後まで続けられるよう支援していく。</li> <li>・部活動単位でのボランティア活動は定着し、継続的に実施されているが、個人でのボランティア活動参加者が少ないので、広報活動を充実させたい。</li> <li>・地域防災訓練に継続的に活動することで地域への帰属意識や連帯感が高まるようになると考えられる。生徒が地域防災の一翼を担えるように今後も指導を継続していきたい。</li> </ul>	<p>〔保護者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際に関する公開講座は興味深いものであった。高校生と一緒に学べる良い機会であった。多くの人に参加してもらえよう呼びかけてほしい。</li> <li>・せせらぎ学校は子どもたちのためだけでなく、大人にとってもよい経験となった。</li> <li>・子どもたちが、大人に対して、自分から話せるようになると良い。</li> <li>・ボランティア活動に積極的に参加している様子が見える。</li> </ul> <p>〔学校評議員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異世代との交流は、コミュニケーション能力を高める良い経験となる。これがキャリア教育の基本となる。</li> <li>・ボランティア活動で地域の行事に参加してもらい助かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域等連携教育の視点から行ったさまざまな取組みについては、生徒の取組み状況や感想から、良い成果が得られたことが確認できた。</li> <li>・地域との連携については、お互いの行事に参加し合うなど、工夫することができた。また、継続的に協力していただけるよう受け入れ態勢を整えていく。</li> <li>・学校説明会などの中学生への広報活動では、本校在校生による主体的かつ意欲的な運営が定着してきたため、充実したものとなった。</li> <li>・近隣小学校との交流・連携がさらに進み、生徒の地域貢献への意識を高めることができた。</li> <li>・災害時における備蓄食糧の充実を進めた。また、災害時用のストーブなどを整備した。</li> <li>・地域の防災訓練に生徒が参加することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育力向上推進事業の取組みを継承し各グループや教科で積極的に実践していく。</li> <li>・地域と交流したことによる成果の周知方法を工夫し、より多くの生徒が参加するよう情報提供を進めていく。</li> <li>・災害発生時に向けた整備を継続的に進めるとともに、非常時の地域住民の受け入れについても検討していく。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事ゼロの実現。 ②再編・統合及び完校に向けた取組の推進。	①不祥事防止に対する研修会の充実を図り、職員の意識を高める。 ②40周年記念事業実施に向け、完校を視野に入れた取組を推進させる。	①研修会を通じ、危機管理能力の涵養を図る。 ②生徒・職員のアイデアを反映させた式典の準備。	①全体研修会を実施し、不祥事ゼロ目標を達成したか。 ②生徒・職員のアイデアを反映させることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に全体研修会を開催、色覚に障害のある生徒に対する対応を研修した。</li> <li>・校内イントラネットを活用して注意喚起の頻度をあげた。</li> <li>・不祥事ゼロを達成した。</li> <li>・記念のDVD制作にむけてコンテンツの収集をすすめた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題を抱える生徒に対してどう対応していくかの見識を深めるため、今後も多様なテーマから研修を企画する必要がある。</li> <li>・年間を通じて多くの事故防止研修の機会を持つことができた。</li> <li>・記念のDVDを記憶に残るものにするためにさらに企画を練り上げていく必要がある。</li> </ul>	<p>〔保護者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完校に向けて、行事や取り組みについて精査していく必要がある。</li> <li>・空き教室の活用など検討してほしい。</li> </ul> <p>〔学校評議員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故・不祥事防止研修については、充実した研修を実施することができた。</li> <li>・40周年準備委員会を立ち上げ、実施に向けた準備を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に研修を行っていくために、内容がより深いものとなるよう検討していく。</li> <li>・生徒の意見等も取り入れながら実施に向けて取組みを推進する。</li> </ul>